

中3英語におけるコンピュータを活用した授業 —クロスカリキュラムの発信型プロジェクト—

仲田 恵子・鈴木 裕子

【抄録】 コンピュータやネットワークを活用した2000年度中学3年生の英語における発信型プロジェクトの実践研究について、キーパルプロジェクトを中心に鈴木が論じ、英語科と総合人間科（総合学習）のクロスカリキュラムの視点から仲田が論じる。韓国の同学年の学生とのインターネットを媒体とした英語の手紙交換による生徒の動機付けと態度の変化を検証し、その他の活動：Show and Tell on the WWW、留学生との交流、国際交流課題研究、平和メッセージ、英語のビデオ作成、平和教育学級新聞交流、バイリンガル「平和ポスター」作りなどについて論じる。

【キーワード】 中学校、英語教育、コンピュータ、インターネット、キーパル、メール、コミュニケーション、総合学習、総合人間科、国際理解、平和、広島、留学生、国際交流、ビデオ、プロジェクト、バイリンガル、Webページ、クロスカリキュラム、チームティーチング、CMC、Key pal、Show and Tell、html、WWW、ThinkQuest

はじめに

コンピュータを媒体としたコミュニケーション（CMC）が昨今、外国語学習の分野で積極的に利用され、それが外国語学習におよぼす影響の研究も数多くされている。Warschauer (1996) はアメリカ、香港、台湾の大学レベルでESL・EFL学習者を対象に、コンピュータを用いたライティングおよびCMCと学習者の動機付けの関係を分析した。その結果Communication、Empowerment、およびLearningにおいて、CMCを利用した言語学習は学習者の動機付けに積極的な影響を与えるということがわかった。またShimizu (2000) はこのモデルを利用しCMCが日本の高校生の英語学習に対する動機付けにも積極的な効果を与えることを示した。彼は同時に“CMCによる相手とのやり取りを、学習者はコミュニケーションと感じていることが検証された”と述べている。加えてCMCでは直接顔を合わせない、時間的な制約が少ないなどの理由から学習者への心理的圧迫が少ないとも言われている。そのようなCMCをとおして学習者は直接の面識のない相手とのあいだであってもコミュニティーの存在を認識し、自らをその一員として位置付け、そのことが学習者の英語学習に積極的な効果をもたらすとWan (2000) は述べている。

以上の事柄から、CMCの利用により学習者に英語がコミュニケーションに不可欠となる必然的な状況を提示し、その状況において学習者がCMCによる相手とのやり取りをコミュニケーションだと認識した場

合、そこで英語を使って行われる行動は英語コミュニケーション能力の育成にむすびつく学習になると考えられる。またCMCの利用自体が学習を効果的にする可能性があると考えられる。

1. キーパルプロジェクト

1-1 ねらい

インターネットを利用して生徒と日本語を母国語としない同年代の学生の交流を行う。英語による手紙の交換を通して英語学習の目的がコミュニケーションであることをより強く認識し英語学習に対して高い動機付けを生徒がもつことを目標とする。

1-2 指導計画の立案と実際

1-2-1 全体の流れ

キーパルプロジェクトは2000年5月から2001年1月まで、日本と韓国の中学生がインターネットを利用して手紙を交換するという計画で導入された。参加者は本校中学3年生の80名と韓国の公立女子中学校の中学3年生である。韓国側の参加人数は手紙交換の回数ごとにおよそ60名から100名までさまざまであった。本プロジェクトは韓国側との5回のインターネットを介した手紙の交換と2度のビデオの交換、そしてアクションログと呼ばれる生徒の活動記録を活用した活動から成り立つ。各活動は以下の要領で行われた。

1-2-2 メール交換

メール交換は手紙の作成とその手紙のコンピュー

ターへの打ち込み、韓国側からのメールの読解の二つの活動を含んでいる。事前計画ではメール交換は1対1もしくは固定した少人数のグループ単位で行うようになっていたが相手側の事情もあり、その後、相手を固定したメールのやりとりは断念することとなった。そのためメールの交換は特定の相手を持たない学校対学校の形をとることとし、両国の生徒は毎回設定されたトピックについてメールを書くことになった。トピックはこれまでの英語の学習を生かせるもの、両国の教科書で取り上げられた題材を参考に、以下のものに決定した。

第1回	自己紹介
第2回	クラブ活動、もしくは自分の放課後の生活
第3回	英語の学習について（好きな点、嫌いな点、なぜ勉強するのか、将来英語をつかって何かをしたいかなど）
第4回	夏休みのもっとも楽しい思い出
第5回	40歳のある日

【メールの作成】

英文の作成と英文の打ち込みには時間がかかるため、生徒にはトピックを事前に与え、コンピューターへ打ち込みをする日までにある程度の英文を完成させてくるように指導をした。授業では、生徒は辞書を利用したり、疑問があるときには指導者に質問をして英作文を完成させるとともに、それをコンピューターに打ち込む活動に励んでいた。本プロジェクトでは生徒個人にメールアドレスを与えることをしなかったため、メールを書く活動は、まず生徒が各自ワードに手紙を打ち込みホストコンピューターへ手紙を転送、その後それを一括して韓国側の指導者に送るという形で行われた。

【メールの読解】

韓国側からのメールを読む活動にはグループリーディングを採用した。生徒は2～4人の班にわかれ、韓国からの手紙を友達と相談しながら読み、内容の理解に努めた。各班には韓国の学生からの手紙（1～3通）を載せた異なるプリントが配布され、生徒はその大まかな内容と感想、気づいた点などを班の仲間と話し合う。その後、指定の用紙に記録し授業後に提出した。

1-2-3 ビデオ交換

ビデオ交換は当初プロジェクトに含まれてはいなかった。メール交換の相手が固定されないことから生徒が相手に対して親近感をもつ機会が不十分なることを危惧し、両国の指導者間で状況を打破するための話し合いを行っていたところ、生徒から“相

手の顔を見てみたい。ビデオとか送ったらどうかな。だめかな。”というコメントがアクションログを通じてなされた。授業中にこのような提案があったことを告げて生徒の反応を見た結果、生徒が大きな興味を示したため韓国側との協議の末、急遽プロジェクトに組み込むこととした。

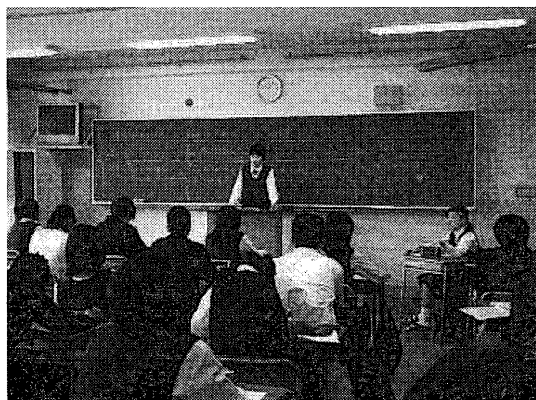
ビデオ交換は夏休み前とプロジェクトの最後に合計2回なされた。最初のビデオは両国とも指導者が撮影した学校での生徒の姿や各生徒のShow and Tell の発表、以前に録画されていた文化祭などの活動風景を編集したものである。2番目のビデオは、日本側はプロジェクトの集大成となるように班ごとに計画から録画、編集まで生徒中心で行われ、指導者は必要に応じて助言をするにとどまった。

1-2-4 アクションログ活動

アクションログ活動（Murphey, 1993）はキーパルプロジェクトにおける各学習の反省を促すとともに、班を基本単位として行われるキーパルプロジェクトに対する感想や意見をクラス全体で共有することを目的として導入された。生徒はプロジェクトに関する指導が行われたほぼ毎回の授業後、活動に対する感想、反省などを活動記録ノートに記し指導者に提出した。彼らのコメントのうちいくつかは匿名でニューズレターに掲載され、次回の授業で配布された。

1-3 考察・評価と今後の課題

本研究ではプロジェクトに対する生徒の反応、および彼らの変化を量的、質的の両側面から評価した。量的評価はWarschauer（1996）を参考にしたアンケートおよび生徒のアクションログに書かれた意見を内容に従って数値変換したものをもとにした。アンケートはプロジェクトの開始直後、開始2ヶ月後、そして第5回目の手紙交換の終了後に実施した。一方、質的評価はアクションログ（学習記録ノート）にはほぼ毎授業後に書き記された生徒のコメントをもとに行った。



総合人間科の授業をビデオで紹介

キーパルプロジェクト（韓国のお友達とのメールやビデオのやりとり）に関するアンケート

() 組 () 番 名前 ()

5月から韓国のお友達とメールやビデオのやりとりをしてきました。そのプロジェクトに関して皆さんの意見を聞かせてください。質問には1～5のうちのどれかひとつに○をつけてください。

1～5の番号の意味は下の通りです。

思わない	あまり思わない	どちらともいえない	まあまあ思う	そう思う
1	2	3	4	5

- | | 思わない | | | | そう思う |
|---|------|---|---|---|------|
| 1. 英語でなにか書くとき、コンピューターを使ったほうがうまくいく。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 自分でかいたものを見直したり修正したりするのはコンピューターを使ったほうがうまくいく | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 手で書くよりコンピューターを使って書くほうが面白い。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 自分や韓国のお友達の書いたものをプリントアウトして見るのは面白い。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 韓国のお友達とコンピューターを使ってコミュニケーションするのは面白い。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. キーパルプロジェクトのような方法で誰かとコンタクトを取るのは直接あうよりも不安が大きい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. キーパルプロジェクトを通せば自分も相手もお互いの学習を助け合えると思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. キーパルにEメールを書くことは、自分の考え方やアイデアを深めるのに役立つ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. キーパルプロジェクトをしていると別のコミュニティ（社会集団）に参加できる感じがする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. キーパルプロジェクトは違った文化や人々のことを学ぶのによい方法だ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. キーパルプロジェクトでコミュニケーションすることは、自分の英語力を磨くのに良い方法だ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. コンピューターの使い方がわかると、一種の満足感が得られる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13. コンピューターを使って書いたほうが、独創的な文章が書ける。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14. キーパルプロジェクトを通して、生の英語を読んだり使ったりする機会が増えた。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15. このクラスで今後もコンピューターを使いつづけたい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16. コンピューターを使うことは時間と労力の無駄である。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17. コンピューターを使うことで自分で自由に学習のあり方を決めていける。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18. コンピューターを使いこなそうとチャレンジすることは楽しい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 19. コンピューターの使い方を学ぶことは自分の将来にとって大切だ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 20. コンピューターの使い方を学ぶことは、英語の独習に役立つ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 21. コンピューターは人々の仲を疎遠にさせ、孤立させるものだ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 22. キーパルプロジェクトを行ったほうが英語を早く学習できる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 23. キーパルプロジェクトによって英語を練習する機会が増えた。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 24. コンピューターで作業すると、たいてい欲求不満がたまる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 25. コンピューターは人間を無力にさせる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

表1 キーパルプロジェクトに対する動機付けの因子構造

Item	I	II	III	h^2
I. コミュニケーションと英語学習				
8. キーパルにEメールを書くことは自分の考え方やアイデアを深めるのに役立つ	.782	.163	.048	.667
11. キーパルプロジェクトでコミュニケーションすることは、自分の英語力を磨くのに良い方法だ	.745	.103	-.061	.614
7. キーパルプロジェクトを通せば自分も相手もお互いの学習を助け合えると思う。	.722	.103	.005	.556
5. 韓国のお友達の書いたものをプリントアウトしてみるの面白い。	.712	.088	-.199	.575
9. キーパルプロジェクトをしていると別のコミュニティ（社会集団）に参加できる感じがする。	.709	.127	.097	.554
10. キーパルプロジェクトは違った文化や人々のことを学ぶのによい方法だ。	.702	.088	-.179	.577
4. 自分や韓国のお友達の書いたものをプリントアウトして見るの面白い。	.689	.18	-.132	.542
23. キーパルプロジェクトによって英語を練習する機会が増えた。	.677	-.037	-.057	.523
14. キーパルプロジェクトを通して、生の英語を読んだり使ったりする機会が増えた。	.637	.047	-.007	.454
II. コンピューターとライティング				
1. 英語で何か書くとき、コンピューターを使ったほうがうまくいく。	.013	.691	-.023	.580
2. 自分で書いたものを見直したり修正したりするのはコンピューターを使ったほうがうまくいく。	-.031	.593	-.02	.430
13. コンピューターを使って書いたほうが、独創的な文章が書ける。	.085	.587	-.037	.451
3. 手で書くよりコンピューターを使って書くほうが面白い。	-.027	.532	-.254	.439
III. コンピューターの使用				
16. コンピューターを使うことは時間と労力の無駄遣いである。	-.091	-.141	.691	.580
25. コンピューターは人間を無力にさせる。	-.053	-.098	.671	.543
24. コンピューターで作業すると、たいてい欲求不満がたまる。	-.031	.031	.663	.517
21. コンピューターは人々の仲を疎遠にさせ、孤立させるものだ。	.039	-.067	.562	.405
15. このクラスで今後もコンピューターを使うことは時間と労力の無駄である。	.205	.324	-.44	.379
12. コンピューターの使い方がわかると、一種の満足感が得られる。	.251	.269	-.42	.405
6. キーパルプロジェクトのような方法で誰かとコンタクトを取るの直接会うよりも不安が大きい。	.079	.188	.411	.321
Residual Items				
17. コンピューターを使うことで自分の自由に学習のあり方を決めていける。	.229	.415	.088	.284
18. コンピューターを使いこなそうとチャレンジすることは楽しい。	.414	.529	-.247	.538
19. コンピューターの使い方を学ぶことは自分の将来にとって大切だ。	.334	.47	-.246	.412
20. コンピューターの使い方を学ぶことは英語の独習に役立つ。	.391	.458	.018	.415
Eigen Values	6.823	3.079	2.318	
% Variance	27.291	12.317	9.274	

1-3-1 生徒の動機付けの変化

本研究ではアンケートにより生徒のプロジェクトを通しての英語学習およびプロジェクトに必要な不可欠であったコンピューターの使用に対する反応を調査した。データは68名の生徒から収集され、主因子分析およびバリマックス回転によって処理され、以下の分析条件がみられた。

1) 最高負荷値は0.40以上であること

2) 第一、第二負荷間は少なくとも0.10以上であること

3) 共通性 (h²) は0.30以上であること

4) 各因子ともEigen Valueが0.10以上であること

その結果、1) コミュニケーションおよび英語学習、2) コンピューターを使つての英作文、3) コンピューターの利用、の3因子が抽出された。

表2 Warschauerモデル：3回の平均値

因子	第一回 X (S D)	第二回 X (S D)	第三回 X (S D)	F (68)	Significance
コミュニケーションと英語学習	3.312 (.777)	3.474 (.876)	3.444 (.765)	1.075	.344
コンピューターとライティング	3.326 (.881)	3.428 (.860)	3.338 (.737)	.280	.756
コンピューターの使用	2.833 (.637)	3.012 (.635)	2.728 (.639)	4.687	.011

t : p<.1, **<.01, ***<.001

因子抽出後、ANOVAを利用し実施した3回のアンケート間の差異を検証したが、結果として生徒の動機付けにあまり大きな変化は見られなかった。生徒はキーパルプロジェクトをコミュニケーションであると認識し、英語学習にどちらかといえば‘まあまあ’役に立つと考えている。そしてコンピューターの利用は彼らの英作文にどちらかといえば‘まあまあ’積極的な影響を与えているようである。また生徒はコンピューターの利用が彼らの学習にとってそれほど大きな効果をもたらすとは考え

ていないことが明らかになった。

ところが生徒のアクションログではキーパルプロジェクトに対する積極的な意見が多く見られた。各活動に対する積極的なコメントをした生徒数を各回で集計したところ、“韓国への手紙を書く”に関しては平均して50.4人であり、“韓国からの手紙を読む”に関しては平均して48人であった。また各活動が難しいと答えた生徒は前者では第三回を除いてすべて10人以下であり、後者に関しては、第一回以外は平均して15人であった。(表3、4. 参照)

表3. 英語の手紙作成に対するコメント

	積極的な意見	難しいが楽しい	合計	否定的	アクションログの数	コンピューターに関する意見
第一回目	50	6	56	2	77	23
第二回目	52	6	57	3	72	19
第三回目	50	19	69	3	76	13
第四回目	51	8	59	2	68	16
第五回目	49	10	59	2	70	11

表4. 韓国からの手紙を読む

	積極的な意見	難しいが楽しい	合計	否定的	アクションログの数
第一回目	46	8	54	3	77
第二回目	54	14	68	4	70
第三回目	40	14	54	2	72
第四回目	52	17	69	4	70

アンケートの結果ではキーパルプロジェクトを通しての学習に対する生徒の動機付けに大きな変化は見られなかった。しかしながら毎回のアクションログでは生徒のプロジェクトに対する積極的な態度が表れた。二つの調査結果の大きな差にはそのデータ収集時期が大きく影響を与えたように思われる。アンケートは主にプロジェクトの活動が行われない日に実施されたのに対し、アクションログは毎回活動の直後に記録されていた。活動からの時間が経過することによって生徒の興味もその他の事柄に移っていくことが普通であり、その影響が結果の差異の原因の一つであると考えられる。またコンピューター利用の学習への効果に対する生徒の評価が低かった原因として、本プロジェクトでは生徒が主にコンピューターのワープロ機能を使ったが、それに対し彼らのタイピング能力が彼らにとって満足いくレベルではなかったことによる否定的な影響も考えられる。

1-3-2 生徒のアクションログにもとづく考察

次にアクションログに書かれた生徒のコメントを参考にプロジェクトの総評を行いながら、上の数量的結果に対する考察を行いたい。生徒のアクションログのコメントから、彼らはプロジェクトを通して大きく二つの事柄に特に興味をもって取り組んでいたということがわかる。第一に、このプロジェクトのテーマでもある「異文化理解」である。生徒は手紙やビデオによって伝えられる韓国の文化や、手紙に表された韓国の学生の考えに大きな興味関心を示した。第二に、自らの英語力である。彼らは韓国の学生との手紙およびビデオのやりとりを通してまず相手の英語力に関心を持ち、それと比較をすることによって自分のコミュニケーションのための英語力に興味を向けた。

韓国からの手紙が届くたびに彼らのアクションログは新たな発見への驚き、興味にあふれた。異文化に触れ、異文化を持つ同学年の学生の考えに刺激を受け、彼らとのより深いコミュニケーションへの意欲を生徒が持ったことがこのプロジェクト最大の長所であろう。以下は生徒のコメントである。

第三回目「英語の学習」リーディング後

“今日も手紙を読みました。読んでビックリ！入試のための間違っただけ教育政策をされているそうです！まちがった教育政策ってなんだろう。この人はしっかりした考えをもっているんだと思いました。すごいですね。この人は私と同じように外国の人と話しをしたいそうなので、この友達と話しがしてみたいです。”

“韓国の友達が発音を重視しているみたいです。繰り返してテープをきいたりしているようです。私も見習わなくちゃ。”

第四回「夏休みの最も楽しい思い出」リーディング後

“コンサートはとても疲れるけど、大好きな人たちが音楽をやっているのを聞くと幸せになれるし、とても楽しい気分になる。すごく共感のできる手紙でした。”

“ボランティアをしてしかも地球のことにここまで深く考えていてすごいと思った。”

第一回目ビデオ鑑賞後のアクションログより

“同じ年齢で自分の国の伝統音楽を演奏できることに驚いた。日本の中学生で琴や三味線を演奏できる人ってなかなかいないと思った。”

“韓国の友達のビデオは迫力があつた。今度こっちから送るときは日本文化のおもしろい紹介ができるといい。”

“私たちのビデオはvery very funにしたいです。なんか違う国の子達と知り合いになっているんだなあ、スゴイと思った。”

次に英語力に関する生徒のコメントを見ていきたい。現在、韓国では小学校から英語の授業が導入されているが、このプロジェクトに参加した学生は中学校入学後に英語学習をはじめた世代である。指導者には両国の生徒の英語力に大差は感じられなかったが、その特徴には大きな違いが見られた。韓国の学生は文法およびスペルに間違いが多く見られたものの、日本の生徒に比べ新しい単語を積極的に使い、長い手紙を書いていたように思われる。対して日本の生徒は文法やスペルの間違いは少ないが、その手紙は韓国の学生に比べて短いものが多く英語をつかっての発信に対する慎重な態度が窺われた。このような相違に生徒は敏感に反応し、それがアクションログのコメントにもよく見られた。

第二・三回目リーディング後

“私は英語の文を少ししか書かなかったのに、韓国の人たちは、いっぱい書いていた。家族の紹介もしていた。次の手紙はもっと書こうと思った。”

“手紙の単語は難しいのがあつたけど何を言いたいのかわかった。”

“手紙ではわからない文法や単語がいっぱいでてきた。レベル的には向こうのほうが上なのかな。。。”

“韓国の友達の手紙の内容を見て、向こうも英語力は同じだなと感じた。もっと英語力をつけてメールを送りたい。”

第四・五回目ライティング後

“けっこう自分なりに文を作れてよかった。最近自分で英文がなんとなく作れるようになってきてうれしい。もっと練習して、全部自分で英文をつくれたらいいと思う”

“韓国のお友達ともっと仲良くなれるといいです。やっぱり英語はおもしろいです。I want to talk with many people in English.”

“まだ自分の言いたいことがうまく英語にできないのが悔しいです。もっともって伝えたいことがあるのに。”

“今日のはとても難しかった。……韓国の子はどんな夢を持っているのかな？”

“必死で英文考えました。大変でした。でも辞書をいっぱいひいて勉強になりました。”

韓国の学生の英語が優れていると感じた生徒の多くは上の例のように積極的にその事項を学習し、自らの英語も上達させようとする姿勢をみせた。特に、似通った条件で英語を勉強している仲間として韓国の学生をとらえる態度がそのような積極的な態度の育成につながったように思われる。また日本人の生徒間ではグループリーディングを採用したため、英語の苦手な生徒も友達と意見を交換し助け合いながら韓国からの手紙を読みすすめていけたようである。一方で、韓国の学生の文法やスペルの間違いが手紙の理解の妨げになると苛立ちを見せた生徒も少なからず見られた。文法の間違いや、その他の理由で手紙の内容理解に困難が生じた場合は、指導者が生徒の活動を手伝うようにした。また同時にそのような経験からコミュニケーション活動における文法の必要性を実感した生徒もいたようである。

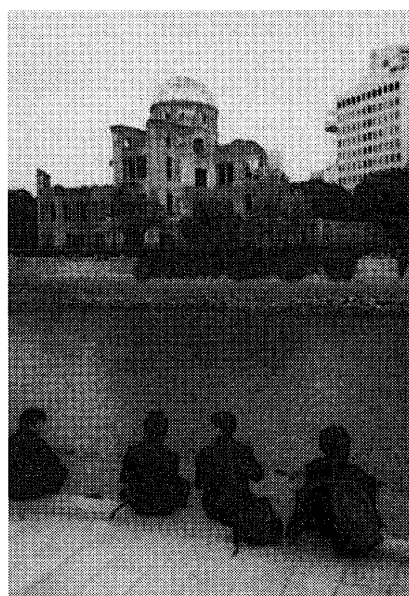
最初は漠然としていた相手像が、手紙の交換を進めるごとに、またビデオを見ることによってより明瞭なイメージとなり、韓国の学生とのより深いコミュニケーションを望む生徒の姿勢が育成された。そのような変化は生徒のコメントの内容の変化にも表れた。このような姿勢は特に、韓国側に送るビデオをほぼ全て自らの力で作り上げたという事実がよく表していると思われる。

しかしながら、相手へのより深いコミュニケーションに対する動機付けは一方で、定まらない手紙の交換相手という条件によって阻まれてもいた。交流が深まるにつれ、生徒から固定した相手との手紙

交換を望む声が多く聞かれるようになったのだ。生徒はそのような手紙交換が不可能である詳しい理由を知って納得はしたものの、長い期間をかけて手紙交換をするにつれ同年代の外国の友達について詳しく知って仲良くなりたいという動機付けへの影響は免れない。また、そのような相手の欠如により自らの手紙に対する韓国の友達からの反応や、韓国の友達から来た手紙の内容に対する生徒の興味や疑問を含んだより深いコミュニケーション機会の断絶による影響も否定することはできないだろう。このような条件が①で分析したように、生徒は各活動を楽しんで行っているが、それが彼らの動機付け向上に結実しなかった原因の一つと考えられる。このことから、少人数のグループでの固定したやりとりが長い期間でプロジェクトを行う場合はとくに不可欠であると思われる。

1-4 キーパルプロジェクトを終えて

キーパルプロジェクトは生徒の英語をコミュニケーションの道具として興味をもって使用する機会を与える取り組みであると生徒の反応から考えられる。ビデオレター交換やグループリーディングを取り入れることによって英語の苦手な生徒も英語を使った交流を楽しむことができた。また、チームティーチングの形をとることにより生徒一人一人の要望に対応し、かつ彼らの自主性を尊重する状況を作り出せたと考えている。今後は生徒のコミュニケーションに対する動機付けを継続して向上させる方法を採用し、またプロジェクトで芽生えたコミュニケーションを目的とした英語学習という認識を効果的に授業に取り込む方法を考えたい。



原爆ドームを写生する生徒たち

2. 総合人間科と英語科のクロスカリキュラム

2000年度中学3年生において生徒が様々な成果をあげることができたのは、この学年が中学2年生から続けている総合人間科と英語科と情報教育におけるクロスカリキュラムの取り組みが生徒の活躍を支える基礎となっているからであると考えられる。1999年度中学2年次には、英語の授業において、教科書New Crown English Course 2に基づく通常授業の他に、生徒たちは、以下の内容を含む授業に参加した。

2-1 これまでの取組み：中学2年次のクロスカリキュラム的学習

- (1) 図書館コンピュータ講習会Lesson 1において、iMacの基本操作とネットワークの利用について学んだ。
- (2) 図書館コンピュータ講習会Lesson 2において、文化庁、(社)著作権情報センター、手塚プロ製作の「悟空の著作権入門」ビデオを見て著作権について学び、またプリンタの使い方を学習した。
- (3) 英文タイピングの基礎練習を4時間行い、タッチタイピングの方法を学んだ。
- (4) htmlファイルの作り方基礎講座でWebページの作り方を学んだ。
- (5) Show and Tell on the WWWのプロジェクトで "My Treasures"をテーマに、まず教室でALTとのTTで英作文指導、発音指導、発表練習を行い、次に小グループで発表、その後、発表の際に見せた物の画像取り込み、htmlファイルを作ってWebで公開した。
- (6) PCで画像作り練習をして、「ハイパーキューブ・ペイント」や「花子」などのアプリケーションの使い方を学んだ。
- (7) グリーティングカード作りにおいて英語のメッセージと創作画をPCで描いて、Christmas Card、New Year's Card、Valentine's Day Cardなどを作製した。
- (8) Bilingual Poster Project 『生命と環境』ポスター作りにおいて、英語と日本語のメッセージと創作画をPCで描いて、総合人間科で行なった各自の研究をもとに、二ヶ国語でアピールするポスター作りを行なった。

以上が中学2年次の英語の授業におけるクロスカリキュラムの取り組みである。これらの活動は2000年度中学3年次にさらに発展していった。

2-2 中学3年次のクロスカリキュラム的学習

教科書New Crown English Course 3に基づく通常授業の他に、総合人間科と英語科と情報教育におけるクロスカリキュラムの発展的取り組みとして、留学生を囲む会、Show and Tell on the WWW、メール交換、「平和の翼」平和教育学級新聞交流、2ヶ国語「平和ポスター」作り、学校紹介英語ビデオ作成などの内容を含む授業が展開された。

2-3 留学生を囲む会

中学3年生の総合人間科において国際交流、国際理解を目的として、「留学生を囲む会」を企画した。実施日は6月1日(木)5、6限で、名古屋大学の留学生を招いて行なった。学習過程の詳細は、本紀要中学3年生の総合人間科の項で論じた通りであるが、事前学習として英語の授業で、外国人にインタビューする際の心得、交流会の基本英語表現、インタビューのマナーになどついて学習した。(資料：授業プリント) 学習過程は以下のとおりである。

2-3-1 目的

留学生との交流を通し、コミュニケーションの大切さや楽しさを実感するとともに、異文化に触れる契機とする。また、外国人の戦争や平和に対する考え方にも触れ、国際理解を深める場とする。

2-3-2 事前学習活動

総合人間科1時間、英語1時間

- ①グループ分け：各クラス5つのグループを編成し、合計10グループとする。留学生の数に変更があれば当日までに調整する。研究旅行の班で行なうこととなった。
- ②交流会の役割分担：司会進行、記録の係を決めた。質問は全員で行なうこととした。
- ③親睦のためのゲームを決める：交流会で留学生とゲームで文化交流することにし、生徒は自分たちでどんなゲームをするか決めた。
- ④報告会の役割分担：後日行なう報告会の発表者、資料作成者、発表アシスタントなどを決めた。
- ⑤質問事項を考え、英訳し、班で質問の順番を考える：生徒は質問事項を適当な順番にならべ質問者を決めた。英訳は英語の特別授業で完成した。
- ⑥外国人にインタビューする際の心得、交流会の基本英語表現の学習：英語の特別授業を行なって交流会で使える英語表現を覚え、インタビューのマナーについて学習した。例えば、プライベートなことは尋ねないことや、相手の答えが聞き取れない場合はどのように言うか、交流会の始めと終わりの挨拶は英語でどのように言うかなどを学習した。(資料1：「留学生を囲む会準備・スペシャル英語授業」)

2-3-3 交流会当日

6月1日(木) 5、6限

交流会の当日は名古屋大学の留学生8名(中国人2名、韓国人2名、フランス人1名、アメリカ人1名、台湾系アメリカ人1名、韓国系アメリカ人1名)の参加を得たて、それぞれのグループで、①始めの挨拶②歓迎の言葉③自己紹介④ゲーム⑤インタビュー⑥フリートーキングが行なわれた。生徒はそれぞれが各自で記入する「交流会報告用紙」に留学生の話のメモや班のメンバーの質問とそれに対する応答などを記入した。

2-3-4 事後学習活動

6月1日のST、6月3日の3、4限、6月8日(木) 5、6限

- ①感想とまとめ：交流会終了直後、生徒は「交流会報告用紙」の最後に交流会の感想を記入して提出した。
- ②報告会準備：6月3日の3、4限に、各班は留学生とのインタビューとフリートーキングで得た情報をまとめ、文字や絵の入ったパネルを作ったりして交流会で報告を行なうための準備をした。
- ③報告会：6月8日(木) 5、6限に2クラス合同で留学生8名のそれぞれについて交流会の報告を行なった。司会進行は総合人間科系の生徒が担当した。生徒は交流会報告会評価用紙を持ち、各班の報告を聞いてメモをとり、発表に対する感想と評価A～Eを用紙に記入した。

2-3-5 考察

各グループでは、留学生の英語、日本語、韓国語で会話が進められた。留学生の中には日本語が話せる学生がいたので、生徒たちには分かりやすかった。またあるグループでは、本校生徒の中に朝鮮民族系中国人の鄭さんがいて、韓国人留学生と韓国語で会話することができた。この班では他の生徒の質問がうまく留学生に伝わらないときには鄭さんが通訳をしてコミュニケーションを深めることができた。教育実習生もグループの交流会に参加した。

生徒たちは留学生との交流を通して、留学生の出身国について、母国の生活習慣や文化について、留学生の趣味特技や好きな音楽や日本の食べ物について、学校生活の相違、日本の印象などについてインタビュー形式で対談した。

生徒の感想としては、「とてもいい人だった」「英語でコミュニケーションをとるのが難しかった」「留学生の英語の答えがよくわからないところがあった」「鄭さんが韓国語で通訳してくれてすごいと思った」「もっと英語で質問をしたかった」「話を聞いて驚いたことがあった」「日本語で話してくれ

て分かりやすかった」などがあった。生徒のそれぞれがコミュニケーションのための語学学習の重要性を感じたようであった。

2-4 Show and Tell on the WWW

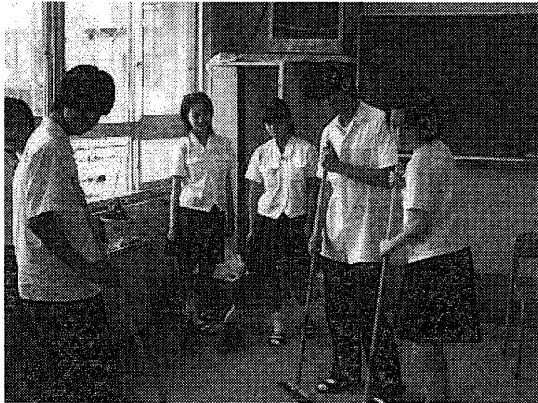
中学2年次にはMy Treasuresというテーマを設定したが、中学3年次には題材はOur Daily Life, Things Japaneseなどなるべく海外の交流校の友達に日本を紹介する内容が望ましいということでテーマを設定して英語の授業でShow and Tellを行なった。主な指導過程は、①ALTとのTTで英作文指導②発音指導③発表練習④クラスで発表⑤ビデオで撮影⑥htmlファイルの復習⑦Webページ作成⑧Webページ発表、⑨評価であった。Show and Tellの発表を撮影したビデオの一部をキーパルプロジェクトの交流校に送った。発表後、基本的なhtmlファイルの作り方を英語の授業で学習し、発表の際に見せた物の画像取り込み、htmlファイルを作り、生徒は各自のWebページを作製した。出来上がったWebページ作品は「平和の翼」プロジェクトの交流校など、海外の友人たちに紹介した。(資料2：Show and Tell on the WWW-Webページの作り方)



総合人間科の授業をWebで紹介



「たまごやき」をWebで紹介



学校生活をWebで紹介

2-5 メール交換：キーパルプロジェクト

このプロジェクトは、本稿の最初で共同研究者である南山大学大学院の鈴木裕子氏が論じたものである。中学3年生の英語では鈴木氏と週1回のTT授業を行い、韓国釜山市の中学生とメール交換をするキーパルプロジェクトを実施した。教科書New Crown English CourseのLet's Talk, Let's Writeの発展学習を兼ねるものであった。主な指導過程は、①テーマを決めてメール作成指導②コンピュータ入力③交流校から届いたメールをグループで読解④アクションログ・アンケートであった。Show and Tellの発表などを撮影した授業風景のビデオ及び生徒が自主制作した学校生活紹介ビデオの交換を含めて行なわれた。鈴木氏は夏期休暇を利用して交流相手校である韓国釜山の中学校を訪問し、指導教官レベルでも交流を深めた。

韓国の中学生とのメールによる交流を通して、生徒たちは韓国・朝鮮に興味を持ち始め、総合人間科の「広島研究」を韓国・朝鮮をはじめアジアの人々の立場か

らも考える視点を持つことができた。実際、10グループの中で2グループが韓国人被爆者をテーマに、日本が第2次世界大戦において戦争加害者となった事実について調査を進めた。A組2班は「アジアと広島」をテーマに日本の侵略の歴史と韓国・朝鮮人の被爆の実態と戦後補償の問題について研究した。またB組3班は在日韓国・朝鮮人の被爆者をテーマに日本人が彼らに与えた被害や差別について研究した。一般に広島を焦点とした平和学習は原爆の被害だけに偏りやすいが、本校の中学3年生が幸いにも韓国・朝鮮やアジアまで視野を広げて平和学習を行い、被害だけでなく加害についても学習することができたことは、キーパルプロジェクトの好影響であったといえる。

2-6 「平和の翼」平和教育学級新聞交流

本校主催のインターネットによる共同研究で、研究の名称は、**Peace on the Wings—Peace Education Class Newsletter Exchange Project**である。

中学3年生と高校2年生の「総合人間科」のテーマは「国際理解と平和」で共通している。修学旅行の訪問先は中学生が広島、高校生が沖縄で、それぞれ平和、人権、国際理解について学習するためフィールドワークを行なう。両学年の英語を担当していた関係で、修学旅行に出かける1ヶ月前の10月から中高生が共通して取り組める共同研究—海外の学校との平和教育共同プロジェクト—を始めた。

アメリカの「グローバル・スクールハウス」という共同研究プロジェクトのサイトに研究テーマと詳細を提出して、世界中の学校に参加を呼びかけた。参加校募集要項および研究の詳しい内容は以下の通りである。

Peace on the Wings:Peace Education Class Newsletter Exchange Project 2000

URL:<http://highschl.educa.nagoya-u.ac.jp/users/nakata/project2000.htm>

This project is posted in the Global Schoolhouse Collaborative Learning Project Registry

URL:http://gsh.lightspan.com/pr/_cfm/GetDetail.cfm?piD=1376

Project Begin & End Dates:10/20/2000 to 12/10/2000

Project Summary:This is a project to encourage students' peace learning activities by sharing their experiences and opinions with students of other countries. Students would write a short paragraph and the teacher would send their writings as class newsletter by Email.

Mailing List:<http://www.egroups.com/group/peacewings>

Registration Acceptance Dates:10/05/00 to 10/30/00

NumberofClassrooms: 5 to 10

AgeRange:12 to 18 years

Objectives:

1. Teachers will exchange information about their peace education plans and introduce their classes.

2. Students will learn the importance of peace and learn to appreciate their life through various activities.
3. Students and teachers will exchange Email class newsletter with participating classes and share their experiences.

Full Project Description:

1. This is a project intended for classes related to peace education of any kind.
2. Teachers will discuss the methods of collaborative peace education project by introducing their peace education program.
3. Participating classes will send a newsletter to each other once or twice a month to share their activities and experiences.

Teachers are free to choose activities and make plans for their classes. In case you need some additional ideas, other teachers' suggestions are always welcome. Some of the activities for peace education course for the year 2000 at our school are as follows:

- (1) Students will read stories and watch movies about the World War II, and have a class discussion.
- (2) Students will learn what life was like during the World War through interviews with grandparents, relatives or acquaintances who survived the war, and present in class.
- (3) Students will try cooking simple food that people ate during the war.
- (4) Students will be given a special lecture on world history and foreign affairs by teachers and university professors.
- (5) Students will do fieldwork in Hiroshima and Okinawa. In November the 9th grade students will visit Hiroshima, and the 11th grade students will visit Okinawa on their peace education school trip.
- (6) Students will meet the survivors of the war and the A-bomb.
- (7) The 9th grade students will make a thousand paper cranes and hold a peace ceremony at the A-bomb Children's Memorial in Hiroshima Peace Park.
- (8) The 11th grade students will also make a thousand paper cranes and hold a peace ceremony in one of the caves in Okinawa where many people were killed during the war.
- (9) Students will make a short video program to introduce their school and their class. We hope to exchange videos with participating classes.
- (10) Students will write short passages about their experiences and the teacher will send it to other schools as Email class newsletter.
- (11) Students will do peace study in groups and publish it on the WWW.

In "Peace on the Wings," the Peace Education Class Newsletter Exchange Project 2000, students would write a short paragraph or two about their experiences once or twice month. The teacher would copy and paste their writings on their e-mail message and send it to all the participating classes on the mailing list. Students do not do one-to-one Email exchange. Class Newsletter is always exchanged on the teacher-to-teacher level. 7th to 12th grade classes are invited to join.

October: Our class introduces itself in the first newsletter, teachers will introduce their peace education program and share ideas, and students will write about their activities and study plans.

November: Students and teachers write about their experiences and share opinions.

December: Final exchange of class newsletter.

Once you register, I will give you a list of Email addresses of classes in this project. You would send your class newsletter from your school to all the participating schools each month. I will make a mailing list. As optional activities, hopefully classes can meet each other on the WWW by visiting their web pages, and we can exchange videos that students made.

Registration Instructions:

Please include the following information: Teacher's full name: Teacher's Email address: Grade(s) taught: Subject(s): School: School address: School voice phone: School fax: Web page information: Any other information you think would be helpful. If your school might be tricky to find on a map, please give some location information as well. I will make a list of classes and a mailing list as soon as you join the project.

Project Contact Information:

Keiko Nakata-mailto:nakata@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp

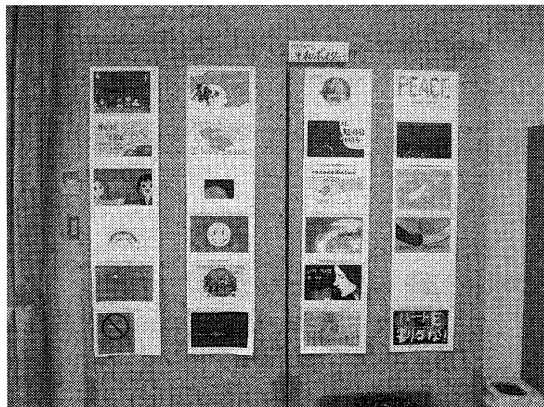
Teacher of English and Peace Education

Junior and Senior High School attached to Nagoya University, Nagoya, Aichi, Japan

<http://www.highschl.educa.nagoya-u.ac.jp/>

<http://www.tcp-ip.or.jp/~nakata/FLEAT4/>

このプロジェクトで交流した学校は、オーストラリア、アメリカ、イタリア、フランスから5校であった。学校紹介、町の紹介、文化の紹介などについて海外の学校と電子メールを利用して英語で交流し、平和教育や国際理解教育について、生徒たちがどんな活動をしているか情報交換をしたり、活動の報告をしたり、体験学習の感想の交換をした。本校からは、中3英語のTT授業（仲田・鈴木裕）と、高2英語ライティングのTT授業（仲田・小澤）でこの共同研究に関連した授業を行った。メールによる交換だけでなく、海外から折鶴や自主制作の英語パンフレット、平和メッセージ、平和祈願の詩などが届いた。本校からは、広島や沖縄でのフィールドワークの計画や報告、中学3年生が平和公園で行なった平和セレモニーのために作成した平和宣言英語版を送ったりした。本校生徒向けに修学旅行広報「平和の翼」を発行して交流の内容を紹介した。（資料3：「平和の翼」広島研究旅行広報）



平和ポスターを学校祭で展示

2-7 バイリンガル「平和ポスター」作り

この企画の名称はBilingual Poster Project ―2ヶ国語『国際理解と平和』ポスター作りであった。創作画とメッセージをPCで描くというもので、総合人間科で行なった各自の研究をもとに、二ヶ国語でアピールするポスター作りを行なった。

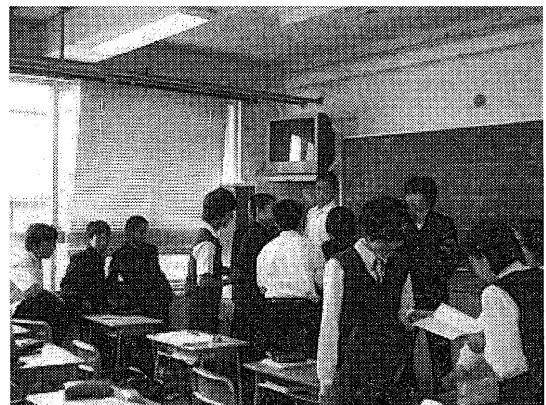
中学2年生の「総合人間科―生命と環境」、中学3年生の「総合人間科―国際理解と平和」において、生徒たちは4～7月に各自のテーマを設定し、9～12月に研究テーマを深め、1～3月に研究をまとめ発表する。そのまとめの段階で生徒はそれぞれが自分の考えを持つようになり、自分のメッセージをアピールする手段のひとつとしてポスターを描いた。英語の授業でキューブ・ペイントや花子を使う練習をした後、2ヶ国語の文字を入れたポスターを作成した。ポスター作品は研究集録の表紙として利用した他、学校祭や研究会、保護者会で展示紹介した。ポスター作品でデザインした研究集録の表紙は、本紀要の中学3年生総合人

間科の稿で掲載した。

2-8 学校紹介英語ビデオ作成

海外の交流校に本校の紹介をすることを目的に中学3年生の英語においてビデオ・プロジェクトを実施した。生徒は班ごとに話し合い、ビデオの内容や係分担を決めて8ミリビデオで自分たちの学校生活を撮影した。英語、または英語とその他の言語を用いることとした。撮影後に編集して完成し、お互いのグループのビデオ作品を見たり、交流校に送ったりした。

生徒たちは、学校生活の中の様々な場面から、登校、始業、授業、昼食、部活動、ホームルーム活動、総合人間科の活動などの他、生徒たちの自己紹介、英語のメッセージ、日本語の挨拶、ポップ音楽などを題材にグループで協力して撮影に取り組んでいた。ほとんどのグループが英語でナレーションをしていたが、中には韓国語によるナレーションを加えたグループもあり、学校生活を紹介する楽しいビデオ作品ができあがった。



学校生活をビデオで紹介

2-9 発展学習

英語の授業において「名大附属中高ネットワーク・ガイドライン」について学習し、その後の総合人間科の研究成果をWebで発信する活動につなげていった。

1999年度に情報教育プロジェクトチームで作成した「ネットワーク・ガイドライン」をもとにネットワーク利用教育を実施した。Webページを作る際には、プライバシー保護に十分配慮し、生徒個人を特定できるような個人情報を含むWebページは作らないことや、生徒の作品、個人研究を含む場合は生徒と保護者の同意を得ること、教官や生徒が取材・研究成果を公開する際には、取材相手方の許可を得ること、人名、写真、音声、話の内容など、プライバシー保護、著作権保護に留意すること、「正当な引用の慣行」にしたがう必要があることなどを指導した。これらネットワーク活用に関する教育を受けながら、中学3年生は一方で研

究集録を編集し、一方で研究成果を発表するためのWebページを作成した。

その後、2000年3月下旬までに中学3年生の2チームがそれぞれWeb作品を完成し、教材WebページコンテストであるThinkQuest@JAPAN2000に参加し、2001年6月の表彰式で中学生高校生の部の社会科学部門とスポーツ・保健部門においてそれぞれ金賞を受賞した。前年度の銀賞に続いて2度目の受賞となった。

山口剛君、足立真訓君チームは「広島・長崎—平和探求の旅」をテーマに社会科学部門で金賞に選ばれた。平井里奈さん、山内友恵さんチームは「どうしてキレイにするの?」をテーマにスポーツ・保健部門で金賞に選ばれた。詳細は中学3年生総合人間科の項で述べたので参照していただきたい

<http://www.thinkquest.gr.jp/library/tqj2000win.html>

おわりに

本校では平成7年度より3年間、文部省の研究開発学校の委嘱を受け、「総合的学習」の特設教科「総合人間科」を設置した。「総合人間科」の導入により学校全体が活性化しており、この成果を発展させるために現在も取り組んでいる。

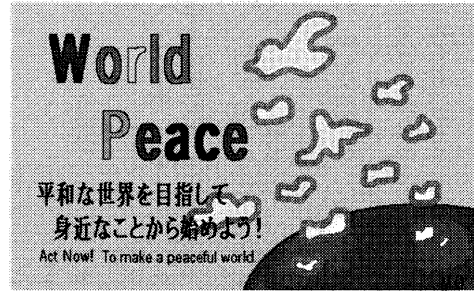
平成12年度より3年間、再び文部省の研究開発学校の委嘱を受け、併設型中高一貫カリキュラムの開発に取り組んでいる。研究開発のテーマは、「高大の連携」を生かした「青年期のキャリア形成」—総合的学習の発展を軸とした併設型中高一貫カリキュラムの開発—である。

また本校は、平成13年度より併設型の中高一貫校として発足し、中高6年間一貫のカリキュラムとして、総合的学習プログラムである「総合人間科」に加え、中学のソーシャルスキル、選択プロジェクト、高校の新教科群など特色ある教育を展開している。このような状況の中で、情報教育の充実を目指して情報教育プロジェクトチームを結成し、現在は中高一貫情報教育プログラムを作成している。

本研究においては、中学英語の授業におけるメディアやネットワークを活用した発信型プロジェクトについて、キーパルプロジェクトによる生徒の動機付けと学習態度の変化、及び「国際理解と平和」をテーマに展開された中学3年生の「総合人間科」との関連で実践研究を行った。本研究は図書資料、ネットワーク、情報機器などを利用した情報教育と総合人間科と英語科のクロスカリキュラムの研究であると位置付けられる。

名古屋大学の学内ネットワークであるNICEが引かれているという本校の恵まれた情報教育環境を、本校の特色ある教育に一層反映できるように、今後は本

研究の一つ一つのプロジェクトを深めると同時に、中高6年間の情報教育プログラムの一貫としてさらに国際交流を進める発信型授業を開発、研究していかなければならない。



平和ポスター 生徒作品

参考文献

- Murphey, T.(1993). Why don't teachers learn what learners learn? *English Teaching Forum* Washington DC USIS.pp.133-153.
- Shimizu, S.(2000). CMCの動機付け効果に関する考察. L E T中部支部春季研究大会ハンドアウト
- Wan, L.(2000). L2 literacy and the design of the self:A case study of a teenager writing on the internet. *TESOL quarterly*, 34,3. pp. 457-482.
- Warschauer, M.(1996). Motivational aspects of using computers for writing and communication. In Warschauer Mark (Ed.), *Telecollaboration in foreign language learning*. Hawaii University Press. pp.29-46.
- 山田孝 「『生きる力』を育てる総合人間科の取り組み—総合的な学習『総合人間科』の授業実践」『コンピュータ&エデュケーション』10号、コンピュータ利用教育協議会編、2001年5月、70-74頁。
- 鈴木裕子 「キーパルプロジェクト：英語学習者の動機付けと態度の変化」『外国語教育メディア学会(L E T)第41回全国研究大会発表論文集』外国語教育メディア学会編、2001年、100-103頁。
- 仲田恵子 「英語と総合学習のクロスカリキュラム—メディアを活用した発信型プロジェクト」『外国語教育メディア学会(L E T)第41回全国研究大会発表論文集』外国語教育メディア学会編、2001年、272-275頁。
- 仲田恵子 「ネットワーク通信：Show and tell on the WWWの実践」『英語教育』東京：大修館書店、48巻7号、1999年9月、80-81頁。

資料1 「留学生を囲む会」

中3総合人間科 「留学生を囲む会」準備 スペシャル英語授業

2000年5月30日(火)

① 用意するもの

地図帳(留学生の自己紹介の時に国や年を確認する)、辞書、
 テーブルコーダ、カセットテープ、質問用紙、質問用紙、ディベートで使ったバインダー、
 留学生に書いていただく用紙(聞いて分からない時は、英語の語句を書いていただく)
 留学生の答えを記録する用紙(各自で書きとめよう)

② 気をつけること

初対面の人に質問するときは、「何歳ですか」や「ボーイフレンドがいますか」、
 「給料はいくらですか」など個人的なことを聞くのは失礼です。以下の質問は
 注意してください。
 「日本を何をしていますか」→「日本を出て行け、帰れ」と誤解されやすい
 「日本にいつまでいますか」→「早く帰れ」と誤解されやすい
 「納豆、刺身が食べられますか」→日本人はだれでもこれを聞きながら、
 外国人は喜ばない。日本中どこへ行っても同じ質問をされていやな思いをしている
 から。これらの質問は、別の言い方に換えましょう。
 What are you studying in Japan? Why did you decide to study in Japan?
 How do you like Japanese food?

③ 英語の挨拶 (分担任して暗記して、相手を見て話せるように練習しよう。)
 始めの挨拶

We are third year students of junior high school.
 One of the goals of our study is to promote international understanding.
 We are very glad to have the chance to meet you and hear about your country.
 私たちは中学3年生です。
 私たちの研究の目標のひとつは国際理解を増進することです。
 あなたに会い、あなたの国についてお話を聞く機会を得てうれしく思います。

We are interested in many things and each of us prepared questions to ask you.
 私たちは多くのことに興味があり、あなたにたずねる質問を用意しました。

If it is O.K. with you, we would like to begin now. First, we will introduce ourselves.
 よろしければ今からはじめたいと思います。まず、私たちが自己紹介をします。

(班の生徒の自己紹介が終わったところで)

Will you introduce yourself, please? あなたの自己紹介をしていただけますか。

④

Will you say it again slowly? Will you say it (that) again please?
 もう一度ゆっくり言っていただけますか もう一度言っていただけますか

⑤

Japanese school system is 6-3-3. Most Japanese go to elementary school for 6 years,
 junior high school for 3 years, and high school for 3 years.
 Will you tell us about the school system in your country?

日本の教育制度は6-3-3制です。私たちのほどんどは6年間小学校に通い、3年間中学校
 に通い、3年間高校に通います。あなたの国の学校制度について教えてくださいませんか。

⑥

For example, we take off shoes at home in Japan.
 Will you tell us about some of the customs in your country?
 例えば、日本では家では靴を脱ぎます。あなたの国の習慣をいくつか教えてくださいませんか。

⑦

(), (), and () are very popular among Japanese teenagers.
 What kind of music is popular among teenagers in your country?
 日本では()()が10代の若者にとっても人気があります。
 あなたの国ではどんな音楽が10代の若者に人気がありますか。

⑧

Thank you for answering our questions. That's all we prepared.
 Do you have any questions for us? We would be happy to answer your questions.
 私たちの質問に答えてくださってありがとうございます。用意した質問はこれで全部で
 す。あなたから、私たちに何か質問がありますか。喜んでお答えします。

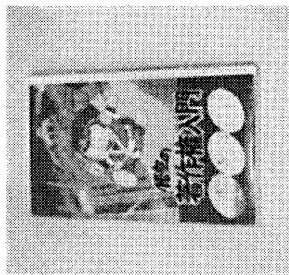
● これらを参考に自分の質問を考えて、はっきりと言えるように練習しましょう。

資料 2 Show and Tell on the WWW

Show and Tell on the WWW
Web ページ作り

2000年6月

これは英語ページのサンプルです。



Goku's Video

I will show you my favorite video.
The title of this video is "Goku's Introduction to Copyright Laws".
The famous cartoonist, Tezuka Osamu, created Son Goku.
Son Goku is a popular character and he appears in this video.
It is an enjoyable animation.
We learned about the copyright laws from this video.
by Keiko

[Japanese page](#)

これはホームページを作る言語HTMLです。
ブラウザのvideo-e.htmを開いて、①~⑤を書きかえましょう。

```

<html>
<head>
<title>
① <u>Goku's Video</u> ←タイトル・テーマ
</title>
</head>
<body>
② <p><center>

</center></p>
<center><h1>
③ <u>Goku's Video</u> ←タイトル・テーマ
</h1></center>
<p><center>
④ I will show you my favorite video. <BR>
The title of this video is "Goku's Introduction to
Copyright Laws". <BR>
The famous cartoonist, Tezuka Osamu, created Son
Goku. <BR>
Son Goku is a popular character and he appears in
this video. <BR>
It is an enjoyable animation. <BR>
We learned about the copyright laws from this video. <BR>
by Keiko
</center></p>
⑤ <p><center>
<A HREF = "video-j.htm">Japanese page</A>
</center></p>
</body>
</html>

```

↑ 画像ファイルの名前

↑ 改行の記号

↑ ニックネームなど

↑ 日本語版Webファイル名

<h1 style="font-size: 2em;">平和の翼</h1> <p>Hiroshima Peace Study No. 1</p>	<p>中3 総合人間科 広島研究旅行広報 平成 12 年 10 月 20 日 発行：記録係&仲田恵子</p>
--	--

電子メール (email) による海外の学校との平和教育共同プロジェクトを開始しました。これは、本校 (仲田) 主催のインターネットによる共同研究です。共同研究の名前は Peace on the Wings ― Peace Education Class Newsletter Exchange Project といいます。意味は「平和の翼―平和教育学級新聞交流研究」です。

海外の学校と、学校紹介、町の紹介、文化の紹介などを通して交流し、さらに平和教育や国際理解教育について、生徒たちがどんな活動をしているか情報交換をしたり、活動の報告をしたり、感想の交換をします。本校からは中3 英語の授業 (仲田・鈴木ゆ) と高2 英語のライティングの授業 (仲田・小澤) でこの共同研究に関連した授業を行います。

英語の授業で韓国釜山の中学校と交流してきましたが、後期からは交流範囲が広がります。まず、これまで皆さんがコンピュータで入力してきた英文をいくつか選んで送ります。今後は広島の研究についても少しずつ英文で書いて送りますので、頑張ってください。

交流校の紹介：イタリアの高校からの学級新聞のメール Mon Oct 16, 2000
Hello everyone in the "Peace on the Wings" project! Nice to meet you all.
I am a teacher of English in an experimental course of ITC "A.Zanon". It is an upper secondary school that numbers 1,400 students aged 14-19 and offers five different curricula in the commercial area (fundamentally for accountants, foreign correspondents and computer programmers, with several sub-specialties).
I will be working on this project with my colleague, Mr. Marco Ciroi, who is the teacher of religious education in my course. The students involved are 16-17 year-olds. Their self-introduction will be e-mailed separately this week.
We live in Udine, a town located in the north-east of Italy, about an hour away from Venice, Trieste, and Austria. Its inhabitants are known for their work ethic and love of tradition, just like all people (generally speaking, of course) of our Friuli region.
Modern Friuli has developed a network of small and medium sized artisan and industrial enterprises in these last few decades, while it has simultaneously carried on in its centuries-old tradition of craftsmen's workshops and reorganized agriculture.
It is, in fact, home both to the Zanussi household appliance industry and to some of Italy's finest goldsmiths, metalworkers and furniture makers, to the novelty of Europe's most successful kiwi-fruit plantations and to the ancient well-kept secrets of the production of "prosciutto crudo", Italy's famous salt-cured ham. And last, but not least, it is one of the five great wine-producing regions in Italy.
We look forward to receiving news from you. Best wishes, Maria Moreale

この共同研究の詳細 (英文) は、本校のホームページで見ることが出来ます。ここに研究の目的や概要が書かれています。 <http://highschl.educa.nagoya-u.ac.jp/users/nakata>

交流校の紹介：アメリカのペンシルベニア州、ピッツバーグ市にある公立学校より
Hello Everybody at Peace Wings!
We are from Perry Traditional Academy, a public school in Pittsburgh, Pennsylvania. We have a Japanese language Program and I became very interested in Heiwa Kyoiku because we do not have any class like that here.

My students are interested in knowing about Japan and I thought this would be a good to introduce and discuss this topic.
I am planning to invite some guest speakers, do origami and read Sadako's book. I am interested also in doing a cooking session on what people ate during the war. If you have any information about it, please let me know.
Isabel Espino de Valdivia
Perry Traditional Academy
Pgh, PA-USA

中3 広島平和学習の通信「平和の翼」でお知らせしました「インターネットによる平和教育共同研究」で交流しているイタリア北東の町 Udine のマリア先生 (Maria Moreale) から ITC "A.Zanon" 高校の平和教育の授業計画についてのメールが届きましたので紹介します。ネオナチの台頭という問題を抱えているイタリアの学校で、歴史、宗教、文学、文化など様々な観点から平和学習に取り組んでいることが分かります。

Dear web-friends,
I'll tell you something about my work in class for the project.
Considering Nazi followers are getting dangerous again these days all through Europe, I thought I could use this project to focus with my class on the terrible suffering the German dictatorship caused to European Jews and to anyone who opposed that regime. Actually, at that time Italian people (and especially Jews) were oppressed by two dictators, Mussolini - our "home made" dictator - and Hitler as well, since they had allied to conquer...the world in World War 2.
Apart from watching the film "Jonah Who Lived in the Whale", my students will interview survivors who personally experienced the atrocities of concentration camps and report to the news group.
Students will then debate with their religious education teacher on the contributions given (or not given) to the process of peace by the great world religions.
Some Spanish poems written by Cardenal will be also read by their Spanish teacher. They are part of a collection named "Psalms for the Oppressed".
Students will get to know the cultural meaning of Japanese paper cranes and will learn how to make them from a Japanese girl attending our school. A picture of their cranes will then be posted to the Nagoya participating students who are going to Okinawa and/or Hiroshima to show them our own sympathy for that tragedy.
Students will finally publish their peace study outcomes on the www.

英文の要約：
最近ヨーロッパ中でナチの支持者が危険になってきました。この共同研究を通して、ドイツ独裁主義がユダヤ人や独裁体制に反対する人々に対して恐ろしい苦しみを与えたということに、生徒たちが注目させたいと思います。実際、第二次世界大戦当時のイタリアでは、ヒトラーとムッソリーニが世界を征服しようとする同盟を結び、ムッソリーニの独裁体制のもとにイタリア系ユダヤ人が迫害されていました。

この授業では、「Jonah Who Lived in the Whale」(クジラの中に住んでいたジョナ) という映画を見ます。また、ナチの強制収容所で残虐行為を受けた生存者を招いてお話を伺います。次に、宗教の先生の授業で「世界の主要な宗教は世界平和に貢献したか否か」というテーマでディベートを行います。スペイン語の先生の授業では、詩人 Cardenal の作品「迫害を受けた者への聖詩」よりスペイン語の詩を読みます。また、本校に通っている日本人生徒から折り鶴を習い、折鶴の文化的意味を学びます。そして私たちの原爆の悲劇に対する共感のしるしとして、広島、沖縄へ出かける名古屋の生徒の皆さんに折鶴を送ります。
最後に、生徒たちは平和学習の成果をウェブページで発表します。(要約：仲田)